

令和元年度 東北農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定団体 10地区

コミュニティ部門

都道府県	市町村	団体名	取組の概要
青森県	つがる市	イナガキワラノカイ 稲垣葉の会	 <p>1) 取組の概要 伝統的な藁文化の継承、藁を和紙に加工した工芸品の創作、体験交流を通して新しい藁文化の創造の取り組みをしている。</p> <p>2) 取組の特徴 ○地元高齢者など藁細工技術者から伝統的な藁細工の作り方を教わり、手軽な藁細工メニューを開発し、学校行事などで藁細工教室で指導。 ○地元中学校の総合学習の一環で藁と穀殻燻炭を用いた水質浄化具を製作し、排水路での環境学習に取り組む。 ○地元の「馬市まつり」に藁で実物大の馬を製作し、パレードに参加することで藁文化をPRしており、好評を受けメディアにも取り上げられている。</p>
岩手県	久慈市	ヤマネロコゴウノサトキョウギカイ 山根六郷の里協議会	 <p>1) 取組の概要 故郷の活性化の為、地域外者も協力し、高齢者と若者が協働し、伝統文化を守り地域資源を活用した取組みをしている。</p> <p>2) 取組の特徴 ○日本の田舎100選にも選ばれた北岩手の田舎の山里の山菜などを活用し、「食」のカフェやファーマーズマーケットを地元の女性や数少ない若者たち、三重県からの移住者の若者、地域が協力し開催。 ○加工施設の許可を取得し、春の山菜は「山根山菜」として大都市等に販売、山根ブランドの(松茸)は各地に出荷、木炭はデコレーションし、飾り炭として県内のイベントで販売し、人気が高まっている。 ○これまで価値を見出せなかった地域資源が「地域の宝」になりビジネスとしての観光客呼び込みが開始し、首都圏への販路拡大の挑戦が始まった。</p>
宮城県	南三陸町	ミナミサンリクヤマノカイ 南三陸山の会	 <p>1) 取組の概要 震災で壊滅状態の地域の復興に向けて、FSC認証を活用した健全な森づくりと南三陸杉の付加価値化に取組んでいる。</p> <p>2) 取組の特徴 ○南三陸杉を使用して仮設住宅、災害公営住宅、町庁舎、復興商店街等に地域産材を活用。 ○南三陸森林管理協議会を組織し、FSC国際森林認証を取得。会員の製材所がFSC流通認証を取得。H30年度には南三陸杉(FSC認証材)が新国立競技場(オリンピックスタジアム)に活用された。 ○南三陸町はFSC認証に続き、牡蠣養殖で日本初のASC認証を取得したこと世界初の森林と海の国際認証を併せ持つ自治体となり、その価値にふさわしいブランド化のため、「山さごさいん」プロジェクトを立ち上げ、イヌワシ環境再生プロジェクトなどの実践活動に取り組んでいる。</p>
秋田県	大仙市	アマルナチイキカッセイカイサライキイキイキョウギカイ 余目地域活性化対策いきいき会議協議会	 <p>1) 取組の概要 花火大会の開催や直売所運営による六次化など集落全戸が実行委員会に所属し、地域活性化に取り組んでいる。</p> <p>2) 取組の特徴 ○余目地域活性化対策いきいき会議協議会で策定した「美しい四季癒やしの構想」に基づき、9つの活動団体が四季を通じて、花火鑑賞会やホテル鑑賞会、産直、そば処の開設、自然観察公園(ピオトープ)の整備などの地域ぐるみの活動を実践している。</p>
秋田県	鹿角市	シヤカフクシホウジンハナフクシカイ ミシキギワークセンター 社会福祉法人花輪ふくし会 錦木ワークセンター	 <p>1) 取組の概要 社会福祉法人が就労支援の一環として、障害者等による山林用苗木生産に取り組んでいる。</p> <p>2) 取組の特徴 ○花卉栽培で使用していたハウスを利用した山林移植用のコンテナ苗の生産を皮切りに、売上高の向上と生産量の拡大につながっている。</p>
福島県	二本松市	フクシマケンリツアダチセガシコウトウガッコウ ノウキョウコース 福島県立安達東高等学校 農業チカサンセンター コース畜産専攻班	 <p>1) 取組の概要 ハチミツと第3のみつの生産から販売を通して、地域に元気を与え福島県の風評被害を払拭する高校生の活動を実施。</p> <p>2) 取組の特徴 ○ミツバチの生態を知ることから実習をスタート。試行錯誤を繰り返した3年目に安定した生産が可能となり、商品名を校門から校舎まで続く坂の名前から「あいさつ坂」と命名し、販売を開始。 ○ミツバチに野菜やくだもの果汁を吸わせ、はちみつに転化するという新しい養蜂技術により、第3のミツ「おのぼばのなみだ」をH28年から生産開始。安達東高校から元気のプレゼントとして、二本松市道の駅や首都圏への販売を開始している。</p>

ビジネス部門

<p>青森県</p> <p>ナカドマリマチ 中泊町</p>	<p>ナカドマリメバルリョウリスインキョウギカイ 中泊メバル料理推進協議会</p>		<p>1) 取組の概要 中泊町のご当地グルメや新商品の開発、メバルを使ったまちおこしに取組む。</p> <p>2) 取組の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地場食材を使った全く新しいご当地グルメ「中泊メバルの刺身と煮付け膳」(略称: 中泊メバル膳)がH27年にデビューし、現在累計販売食数73,000食を越え、地域への波及効果は約4億円以上であり、交流人口も増加している。 ○新たに姉妹品の新・ご当地土産で電子レンジでチンする「中泊メバルでチン」(愛称: メバチン)の登場で相乗効果が上昇。 ○H30年にメバル創作料理のグランプリを決める「中泊メバル料理グランプリ2018」を開催するほか、学校給食への提供も開始し、魚離れの子どもたちに魚のおいしさ、町の特産のメバルを知ってもらう取組などを実践している。
<p>岩手県</p> <p>タノハタムラ 田野畑村</p>	<p>トクテイヒエイリカワドウホウジンタイケンムラ・タノハタネットワーク 特定非営利活動法人体験村・たのはたネットワーク</p>		<p>1) 取組の概要 一次産業に従事する地域住民を中心に、体験プログラムや民泊推進することで、地域活性化に取り組んでいる。</p> <p>2) 取組の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域住民の協力を得て農泊・泊泊受入家庭を100軒確保し、農林漁業者の協力を得て各種体験プログラムを整備し、毎年コンスタントに学校の教育旅行や観光客の受け入れを行っている。 ○教育旅行受け入れ時に、漁業体験・市場見学・調理体験・食事を一連のセットとし、海産物が漁師によって獲られてから、市場を通じ食卓に上るまでを知る学習の場を提供している。 ○財団法人日本交通公社が特A級に認定した海岸景観日本一の「北山崎」の自然やその中を歩くみちのく潮風トレイルを案内するガイドを通じ、自然や景観の素晴らしさを伝える活動を展開している。
<p>宮城県</p> <p>ヒガシマシマシ 東松島市</p>	<p>ユキミツルツルサト KDDIエポルバノビル 幸満つる郷 KDDIエポルバ野蒜</p>		<p>1) 取組の概要 東日本大震災で甚大な被害を受けた宅地跡地を活用し障害者を主体とした農産物栽培の事業運営。</p> <p>2) 取組の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社員が被災地で農産物栽培することの意義を常に考える機会を定期的に設け、自らが世に役に立っているとの気持ちを醸成している。 ○栽培だけでなく、直接お客様の声を聞き、常にお客様視点で野菜作りを推進するため、販売会を各地で定期的実施。 ○障害者福祉施設、介護施設、若者サポートセンター、支援高校、中学校(支援学級生徒)、行政と農園内での実習や社員と一日作業を一緒にする取組も年間実施。
<p>福島県</p> <p>イナワシロマチ 猪苗代町</p>	<p>アミツボツリノウギョウキョウドウクミアイ イナワシロイナサカブルイ 会津よつば農業協同組合 猪苗代稲作部会</p>		<p>1) 取組の概要 農業者とJAと町が三位一体の活動で、米のブランド化や海外展開・6次産業化等を通じた地域活性化に取り組んでいる。</p> <p>2) 取組の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○7ヶ国に輸出している「いなわしろ天のつぶ」の高品質化・良品質化・ブランド化・輸出促進等の取組を開始。ブランド確立のための取組に励んでいる。 ○和食が世界遺産となるなど日本食がブームになっている海外で米のブランドイメージを構築し、国内にイメージを逆輸入する計画を立て、部会・JA・町が三位一体で、H26年から高価格帯米輸出及び海外での販促活動を開始。 ○輸出米の販売実績に応じた農業者への収益還元を実施。(800円/袋)